

7月9日（木）に、名向小学校の5年生が、真珠の核入れに挑戦しました。

最初に、クラスで、核入れについての指導を受けます。小パール隊の皆さんには、感染防止のため、フェイスシールドをしていただきました。その後、4～5人ずつ、理科室で作業をしました。

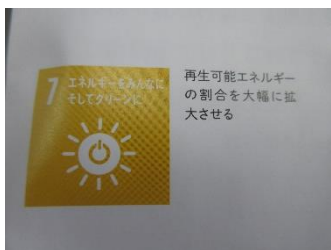
小パール隊の皆さんの援助を受けながら、ひとり1個ずつ核入れをしていきました。緊張しながらも真剣に取り組みました。

核入れされたアコヤガイ（これも小網代産です）は、来年の5月くらいに浜揚げ（真珠を取り出すこと）されます。子どもたちも楽しみにしています。



体験後、教室に戻って、感想や質問の時間をとりました。子どもたちからは、「貝の命にかかわることなので、緊張した」という声が聞かれ、命の大切さを感じたことが分かりました。

最後に、小パール隊の方から、「みなさんに、生まれ育った三浦の海を自慢できるようにしてもらいたい」等のお話がありました。小パール隊の皆さん、ありがとうございました。



現在話題になっているSDGs（国連で定めた持続可能な地球のための17の目標）。三浦市内の学校でも、SDGsの学習をする学校が増えています。市内で、先進的にSDGsに取り組んでいる例を紹介したいと思います。

三崎恵水産では、本年2月から第2工場を再生可能エネルギー100%（RE100）に切り替えました。近々、本工場もRE100に切り替える予定だそうです。

石橋社長によれば、「我々の産業はものすごくエネルギーを使うんです。まぐろを遠洋まで獲りに行き、ものすごいエネルギーを使ってマイナス60℃で冷凍します。『こんなにエネルギーを使う産業なのに、エネルギーについて考えなくていいのかな』という気持ちが湧いてきて」このアクションを始めたそうです。また、「持続可能性というのは獲るか獲らないかではなくて、獲りながらどうするのかを議論していきたいです。我々の子ども世代、孫世代、そしてその次の世代も、ちゃんと笑ってまぐろが食べられる、自信をもってまぐろを食べられる世界をつくる」のが目標だそうです。

わたしたちの身近にも、SDGsに取り組んでいる人たちがいるんですね。私たちにもできることはあるはずです。



テレビで紹介された海南神社に出かけました。

話題になった、50年ぶりに水を抜いた池の中の石碑には、9体の神像や仏像が彫られていました。

貴重な資料なので、教育委員会の職員が、石碑の拓本を獲りました。右の写真は、分かりにくいですが、その中の不動明王の姿です。

